



特集 ②

読むだけでミスが防げる！2次試験のリスクマネジメント

第1章

不合格要因を排除する方法

— ほとんどの受験生に有効な「守り」の対策

平野 純一

KECビジネススクール主任講師/中小企業診断士

中小企業診断士2次試験の受験指導に携わって、はや10年近くになります。当たり前のことですが、受験生の合格・不合格には必ず理由があります。故・野村克也氏の名言「勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし」(元は江戸時代の平戸藩藩主・松浦静山の言葉ですが)は2次試験にも当てはまります。

もちろん、2次試験は記述式ですから、「運」だけで受かることはまず考えられません。しかし、SWOT分析系の問題において適当に引用して満点だったり、適当に選択した経営分析の指標がたまたま正解であったりなど、実力以外のところで運よく点がかさ上げされ、420点ギリギリで合格した受験生は一定数、存在すると推測されます。

それに対して、不合格には通常、明白な理由があります。「なんとなく運が悪くて不合格」という事態は考えられません。そこで、合格という目的に対し、「不合格の要因を消す」というアプローチが非常に有効なのです。本特集では、そのアプローチの一部を皆さんにご紹介しましょう。

1 不合格要因を排除すべき理由

まず、万全の準備をしても避けることのできないアクシデントの場合は、本特集の対象外とさせ

ていただきます。

たとえば、後述の対策をしたうえで急な「体調の悪化」や「外部環境の予測できない問題の発生」なども稀にありますが、それは事実上、対策の取りようがありません。

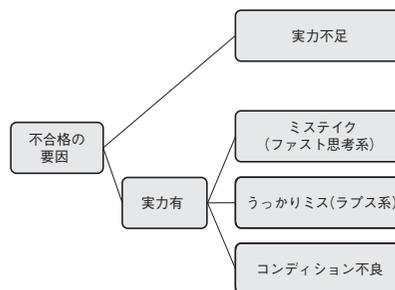
本特集では、不合格要因をいかにして除去するか、いわゆる「守り」(リスクマネジメント)に焦点を当てます。その理由は、次の4つです。

(1) 守りの破綻による不合格は途轍もなく悔しい

合格に達するだけの実力がない方がミスを重ねて不合格だったとしても、それは大した問題ではありません。次ページの図表のように、非常に大雑把に分けて、不合格には2種類あります。「実力不足」に起因するものと、「ミス」に起因するものです。

たとえば、1次試験合格後に大きなプロジェクトリーダーに任命され、ほとんど学習時間が取れずに不合格となっても、それほど悔しくはありません。しかし、1年間十分な時間をかけ、合格するに足る実力を付けたにもかかわらず、うっかりミスが原因で不合格になってしまうと、途轍もなく悔しく感じるでしょう。「何年も夢に見る」とは、このことです。

図表 2次試験の不合格の要因体系図



(2) 費用対効果が非常に高い

読者の方は、1次試験の「財務・会計」で、投資の費用対効果を学習されたと思います。簡単にいえば、投資についてそれに対するリターン現在の価値を比較し、価値が高ければ投資するのが基本セオリーでした。その観点から、2次試験について「リスクマネジメント」を行うことは、「極めて費用対効果が大い」と断言できます。

以下の章で具体策を紹介していきますが、当日の試験時間内に必要なのは、それぞれ0~数分であり、合算しても5分くらいでしょう。その程度の時間の投資(費用)で致命的なミスを激減できるなら、絶対にやるべきだと考えます。

(3) 習得が比較的速くて容易

自分で一からリスクマネジメントの方法を組み立てる場合、それなりの時間が必要ですが、本特集のような形でまとめて知識を吸収できれば、短時間で容易に習得できます。

たとえば、2次試験に合格するために「本質的な実力をつけるためには何をすればよいか」という知識を他から得たとしても、それを本当の合格につなげるには、かなりの努力が要求されます。

それに対して、リスクマネジメントについては一定の理解や習慣化のための努力は無論、必要ですが、本質的な能力の向上のために必要とされる

努力に費やす時間に比べれば、本当に微々たるものです。

(4) 多くの受験生が真剣に対策を取っていない

毎年、2次試験の合格発表後に、合格がかなわなかった受験生の相談を多数受けます。そこで、「ミスはしましたか?」と必ず質問します。それに対し、ほとんどの受験生は、多かれ少なかれ「やらかしました」と答えます。そして、次に「ミスを起こさないように対策を取っていましたか?」と質問すると、ほぼ100%「特にしていません」という答えが返ってきます。

合格のためには、非常に長い期間と努力が必要ですが、たった1度の不用意なミスによって、不合格になる可能性があります。しかし、これは、見方を変えればチャンスともいえます。本特集でミスの防止対策をしっかりマスターして実行できれば、相対的に差をつけることができる可能性が高くなります。

2 ほとんどの受験生に有効な対策です

さて、以上のように、本特集はほとんどの2次試験受験生のお役に立てる自信があります。では、逆にお役に立てないのはどのような方でしょうか。それは、次のような方々です。

- ①多くのミスをして合格できる絶対的な実力(たとえば、ノーミスなら常時平均75点以上確実に取れる能力)の持ち主
- ②性格(能力)的にそもそもミスをしない人
- ③ミスは起こすが、2次試験についてのミス防止策を自ら研究し、完全な具体的対策をすでに確立している人

おそらく、本特集の読者に、①~③に当てはまる方は、少ないのではないのでしょうか? さあ、本特集をご一読いただき、2次試験のリスクマネジメントの考え方を身につけてください。その先に、必ず合格があると信じます。